$\mathbf{6} \tag{340}$

【随 筆】

暑い夏が終わりました

住 吉 尚 (釧路支部)

これは7月のことです。妻が「お父さん、変わったハ チの巣があるよ!」と教えてくれました。行ってみると、 近くの自転車道の植え込みの茂みの中に、そのハチの巣 はありました。直径が5cmほどの丸い巣で、下に4cm ほどの筒状の出入り口が下がっています。何バチだろ う?トックリバチは小さな壺状の巣を泥で作りますが、 こちらは少し大きいだけではなく、普通のハチの巣と同 じパルプ状の巣材でできています。良く判らないなー! と思っていましたが、しばらくして見に行くと、最初に 見た時より少し大きくなっていて、直径が8cmほどに なり、下に伸びていた筒状の出入り口が少し短くなった ような気がしました。最初に見た時から1週間は過ぎて いたでしょうか。オヤ!と思いながら大きさを測るため 物差しを巣に近づけると、中の住人が出てきてジジジと 威嚇し始めました。なんとこの巣はキイロスズメバチの 女王バチが自分だけで作った巣で、出てきたのはキイロ スズメバチの女王バチでした。霧雨模様で寒い朝でした からハチも出てきただけで特に襲ってくるような様子は 見られませんでしたが、もう少し経つと働きバチが羽化 してきて、ハチの巣は一気に大きくなっていくのでしょ う。こうなると働きバチが巣を守るために攻撃的になる ので巣を触るのは危険です。私はキイロスズメバチの巣 をたくさん見てきましたが、女王バチが最初に作るハチ の巣を見たのは初めてでしたので、「へー、最初はこん なに面白い形の巣を作るんだ!」と改めて感心しました。 何でも知っているような顔をしていましたが、まだまだ 知らないことが多いのですね。こうして新たなことを知 るのは楽しいものです。

さて、タンチョウばかりの日々が終わったので、今度は釣りにでも!と出かけました。途中の自然観察のこともあるので、厚岸、散布などを通り霧多布の港へ。港に着くと、まずは全体を見渡します。沖堤にはたくさんのカモメが、そしてその影のように茶色い点が2個、3個とかたまって見られます。双眼鏡で見ると、これはカモメのヒナ達です。時々オジロワシが飛来してカモメが大騒ぎをするのは、このヒナを守ろうとしているのでしょ



キイロスズメバチの巣

う。水面に黒い点が!オヤ!ウミスズメでしょうか。まずは写真を撮ります。双眼鏡で見ましたが、何者かが良く判りません。見ている間に遠くに泳ぎ去りました。さて何だったのだろう?と写真を拡大しながら見ると、正体はウトウでした。どうやら今年生まれの若い個体のようです。成鳥ならまだ夏羽でしょうから真っ黒く、嘴の根元にサイの角のような突起があるのですが、この個体には見あたりません。もうひとつ、全身が黒ではなく褐色に見えることです。1羽だけしか見えませんでしたが、近くではユルリ島あたりが繁殖地でしょうか。霧多布周辺でも少数なら繁殖しているのかもしれませんね。



ウトウの幼鳥

ウトウと言う名前は不思議なので調べてみましたが、 私には判りませんでした。この仲間にはケイマフリとか エトピリカなどと言う鳥がいますが、こちらはアイヌ語 でケイマは足のことで、フリはアイヌ語の赤い(フレ) から来ていると言います。またエトピリカのエトは嘴の ことで、ピリカは美しいという意味ですから、どちらも 鳥の特徴をよく捉えたネーミングです。この3種ともに 海鳥でハトより少し小さいぐらいの大きさで、体は丸っ こく、翼が短いのが特徴です。これは水中では翼を使っ て飛ぶように泳ぐから、翼が大きくては困るからでしょ (341)

う。同じ海鳥でもウと言う鳥がいますが、こちらは水中では翼を閉じて、大きな水かきの付いた足だけで泳ぎます。こちらは体も大きく、カラスより大きいぐらいの大きさで、しかも羽毛が水に濡れやすいのが特徴でしょうか。水中を潜るには浮力が邪魔になるからですかね。私は釧路港でオジロワシがウを捕らえたところを見たことがありますが、この時オジロワシは水中からウをつかみ上げようと何度もトライしましたが、ホバリングに疲れたワシには重すぎて持ち上げられずに、断念して飛び去りました。せっかく狩りに成功しながら、獲物のあまりの重さに諦めたワシはがっかりだったでしょうね。そろそろ準備を整えて、釣りを始めましょうか。遠くの防波堤には釣り人がたくさん見えます。マスでしょうか?もうサケでしょうか?私はカレイが数匹釣れれば満足なのですが。でも暑くなりそうな日でした。

釧路でも7月後半から8月前半はとても暑い日が続き ました。暑いと炎天下での釣りも大変なので少しお休み をすることに。とは言え、家にじっとしている気もあり ません。今日はラッコでも見に行こう!と出かけました。 この時期、釧路市内でも内陸の美原などは大変暑いので すが、海岸線はほぼ毎日霧がかかっています。霧は海か らの高さで濃淡がありますから、道路が上がり下がりす るたびに視界が開けたり見えなくなったりします。ライ トを点け「私はここにいますよー! | とアピールして安 全に走りましょう。先日、霧の散布港でウミツバメでしょ うか、小型のミズナギドリ類を見たのですが、今日は港 内の視界は良かったのですが、変わった鳥は見えません。 霧多布の街は外洋を背にしていますから、街中は霧があ りません。岬に向かって坂を上ると霧の中です。さてラッ コは見えるかな?と思いながら岬の駐車場に。車を降り ると霧の中ですから、さほど暑くはありません。足元の 波打ち際がどうにか見える程度の視界です。これではだ めかなー!と言いながら歩いて行くと、帰って来た人が 「今日はまだ良い方ですよー!」と。地元の人なんでしょ うね。最初に崖下が見える所で探してみましたが何も見 えません。ひと山超えて次に崖下が見える所に来ました。 若い男がひとり海を見ています。私は彼の横に立って海 をのぞき込みました。すると足元の海にラッコが3頭浮 いているのが見えました。どうやら昼寝中のようです。 「オー、ラッコが3頭もいる!」と言うと、横の若者が 「エー、あれがラッコなんですか!流木か何かだと思っ ていました!」そう言うと、もうひと山向こうに走って いきました。「ラッコが見えるぞー!」と叫びながら。 そうすると、間もなくです。子供とお母さんが走ってき

ます。3人家族なんですね。下の海に浮いているラッコの家族と一緒です。双眼鏡を出したりカメラを取って来たり、ワイワイしながら楽しそうです。ひと声かけて良かったなー!と思いました。帰り際にもうひと組にも「ラッコいますよー」と。



霧の中のラッコ

さて、自然観察には双眼鏡が必要なことが多いのです。 「どんな双眼鏡を選べばよいか?」の質問ですが、自分 が見ている場所がどこなのか判らなくなることが多いの で、あまり倍率が高いものはお勧めできません。私はシャ ツの胸ポケットに入るほど小型で軽い双眼鏡を使ってい ます。これはタンチョウの調査でも同じです。私の場合 は双眼鏡では探しません。肉眼で探して「これは!」と 思うものが見つかったら、双眼鏡で確認するという使い 方をします。重いと肩も凝ります。厚岸、浜中、霧多布 が国定公園になりましたね。この中でも霧多布岬のラッ コはもっと宣伝しても良いものですよね。そのためにも、 ラッコを見たことがない人にラッコを見つけるコツのよ うなものが書かれた看板を立てるとか、もうひと工夫あ ると良いと思いました。こんな目だからでしょうか?さ らに走ると、あれほど探した姉別でヒナ1羽を連れたタ ンチョウの家族が、そして厚床ではヒナ2羽連れの家族 も。どうやら足輪付けの終了がタンチョウの仲間に知れ 渡ったのでしょう。どの家族ものんびりしていました。 (我々バンディング仲間の中では、タンチョウはバン ディングが行なわれているのを知らせ合っている、と冗 談をよく言います。)

この夏は暑い日が続きました。やはり最近の気候は明らかに違ってきていますね。言われているように地球全体が温暖化しているのでしょう。釧路でもこんなに暑い日が続くなんて!でも釧路に住んでいる我々にとっては本州方面に住んでいる人と話をしても、それほどずれた感じにならずに暑い夏を経験していると言えましょう。そして雨が極端に少ないですよね。これはこれからの北

海道に何か影響をもたらす可能性があります。農作物も 変わって行くかもしれませんね。町内会で植えた道路脇 の花壇では、葉が大きく柔らかいキンレンカはもう枯れ かかって、葉が小さいマリーゴールドは乾燥に強いので すね、何とか緑を保っているという状態です。たまに雨 が降っても表面がサッと濡れる程度で、乾燥しきった花 壇の土にはもっともっと雨が欲しいという状態が続きま した。それにしてもさっぱり雨が降りません。こんな暑 さがいつまで続くのかと思っていましたが、8月8日午 後から突然空気が入れ替わりました。どうやら釧路の夏 は8日の午前中までだったようです。そして雨の方です が、こちらは台風から変わった低気圧が接近するという 予報ですからこれに伴う雨に期待しましょうか。今年は 春先にまとまった雨が降った後は雨が少なく、タンチョ ウの捕獲作業にあちこち行きましたが、どの川も水が少 なく、足寄町では全く水がない川を歩きました。一方で、 昨年はいつもの年なら膝ほどの深さの川が増水して腰よ り深く、危険を感じて渡河を諦めたのを思い出しました。 それにしても、異常なほど暑い夏、新型コロナウイル



枯れかけのキンレンカとマリーゴールド



たくさんの実を付けたヤマブドウ

ス感染症の爆発的な感染拡大、そしてオリンピックです。 釧路や北海道のみならず日本列島全体が異常な年になっ ているようですね。私はワクチンを2回接種しましたの で、これで普通の生活ができると期待していましたが、 どうもそうはいかないようです。ワクチン接種が終わっ て普通の生活を取り戻そうとしている人と、まだ自粛が 必要な人が混在するこの時期が、最も感染者拡大を押さ えるのが難しい時期のようですね。オリンピックが終わ り、盆が明けたら状況が変わるかと思っていましたがあ まり変わりませんね。

そしてもうひとつ、大変気になっていることがありま す。それはクマ事件の多発と事件の重大化です。すでに 人が襲われる事件が統計開始以来最多になっていますね。 さらに、ここ釧根では牛がヒグマに襲われる事件が頻発 しています。襲われた牛の状況を私は良くは知らないの で、あまり煽りつけるような言い方は控えますが、食べ るために襲っているようなので困ったものです、こう言 う行為を学習した個体がいるということで、こんな個体 は早く駆除しないと次々襲われるということになります。 乳牛は大変大きな動物です。これを襲うということは、 多分大きな雄グマの仕業でしょう。大きな雄グマは行動 範囲が大変広いので、あちこちで事件が起きていても、 こんなことをするクマは多分1頭だけだと思います。そ れにしても札幌市内や旭川市内にも出没していて、農作 業中の人が襲われるなんて!クマと人が上手く折り合い を付けて、事故のない生活を維持したいですよね。クマ は自分が食べるものについて、親から教わったものを中 心に大変慎重に選んで食べます。一般化して「クマなら これを!」と言うのは通用しません。私がクマ牧場で最 初に調教したクマは2頭ともに蜂蜜は食べませんでした し、指につけて口に入れても吐き出してしまいました。 その頃、雷電スイカを作っている農家のおじさんと話す 機会がありましたが、うちの畑に来るクマはスイカは食 べるのだがメロンは食べない、と言います。そのクマは メロン畑には目もくれず、スイカ畑でスイカを割って甘 いスイカだけ食べていくのだとか。そこで次の年はスイ カとメロンを混ぜて植えたと言います。でもクマはそれ でもメロンは跨いでスイカだけを食べていったとか。ク マは何かの拍子に新しい食物を食べて、それが美味しい と認識すると、その餌に執着するという特徴があります。 でもクマ牧場のクマならこの餌が絶対と言う食べ物があ ります。それはアイスクリームでした。飼い主(私)に 似るのでしょうかね。牛を襲うクマは大きな雄グマで、 かなりの高齢ではないかと私は思っています。こんなク

(343)

マは大変慎重で、臆病なくらい人前には姿を見せません。 そしてこんなクマは食物にも特別好みがうるさく、食べたことがないものは決して口にしないでしょう。こんなクマですからワナで捕まえるのはとても難しいでしょう。とは言え、秋に山でクマ探しは命がいくらあっても足りません。春の雪解け直後、冬眠穴から出たばかりを狙うしかないでしょうね。でも駆除は大変難しいでしょう。今はハンターと一緒にクマに立ち向かう犬がいませんからね。(犬はヤブの中でどこにクマがいるかをハンターに知らせるだけで良いのですが。)

*9月13日に霧多布港内で海鳥の死体を見たのでついでに写真を載せました。嘴の形、足の色、腹が白いなどからウトウの幼鳥と判別しましたが、どなたか違う意見があればお教え願いたい。



ウトウの幼鳥と思われる死体

(川柳) 都々逸) 秋の風 北の国 集乳車タンクに映る秋高し 届く頃には 猛暑続いて 顔蹴りは駄目で電ムチ許される エアコン買えば (幕別町 豆作(まめさく)) (現代漢詩 省力化 社長考案解決策 隔離困難煩分群 疫牛発生大牧場 全頭陽性戻一群

(都々逸) 超免疫 警報慣れこそ 警報慣れこそ 下宙から 巨大レンズの 焦がし技 順れ電子で ツボ探る ツボ探る

(俳句)